

記者発表資料		
1/29 (水)	公益財団法人 未来教育研究所	担 当
	理事長 高見 茂 常務理事 藤田 暢旺	安部 邦明 T E L 079-224-1777 ハーベスト医療福祉専門学校

### 「淡路地域の英語教育に関する意識調査」の結果

このほど公益財団法人未来教育研究所では、兵庫県、淡路地域の市の教育機関の協力を得て、京都大学の総合実践研究ユニットと共同で、淡路地域の中学 2 年生とその保護者を対象に、英語教育についてアンケート調査を行った。

中学 2 年生に対しては、①小学校ではどんな英語教育を受けましたか、②中学校の英語教育をどう思いますか、③外国や英語に興味はありますか、④英語村についてどう思いますか、を尋ね、保護者には、①中学校の英語教育、②学校外での英語学習、③こどもの英語力への期待、④英語体験の必要性、⑤英語村への関心、を尋ねた。その結果、公立・私立中学校計 18 校 1,258 人、その保護者 960 人から興味深い回答が得られた。

小学校では早い地域では 1 年生から、多くは 4 年生又は 5 年生から英語でゲームや歌やダンス、そして簡単な英会話などのプログラムを経験している。外国人と話をすることは、週 1 回～月 1 回までバラツキがあるようだ。

中学校へ入学する前の英語に対する印象を尋ねた結果は、英語が好きと答えた生徒は 4 割、残り 6 割は好きではないという結果となっている。また小学校 1 年生の早い時期から英語に接し、その機会が週 1 回と比較的多い地域の生徒達の方が、英語嫌いが多いという結果も出て、英語教育の開始時期や接する回数と好き嫌いが結びつかない結果となっている。

しかし、将来の英語の必要性については、生徒の多くが必要性を感じており、「自分が大人になる頃は、英語が必要になる社会になっており、英語が話せないと困るだろうし、就職にも不利だろう。少し英会話ができるようになればいいが・・・」という意見が多いのは興味深い。

一方、保護者の回答では、生徒とは逆に、英語に関心があるのは 7 割にのぼっており、多くの親達が「英語が好きになって、英会話ができるようになってくれれば・・・。入試や就職の時に困らない英語力を身に付けさせたいので、塾などで英語を学ばせている。」としている。

英語村があればどう思うか、という問いには、生徒の 4 割、保護者の 7 割が関心を示している。生徒は 1 泊～2 泊 3 日程度の短い期間に、ゲームなどで遊びながら外国人とふれあうことを希望しているが、保護者は比較的長期間で楽しく外国人とふれあうことをイメージしながら、日本のことを英語で話をしてほしいと多くが希望していることがわかった。

未来教育研究所では、これらの結果を活用し、新しい英語教育と英語村を提言していく。